
第四次聖杯戦争異聞録

真庭烏賊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第四次聖杯戦争異聞録

【Nコード】

N5517BA

【作者名】

真庭烏賊

【あらすじ】

誕生日記念小説。

これが最初に書いていたF/Zでした。

(前書き)

一つの違いがやがてひび割れた氷の如く広がり混沌となる。

有り得ない会合

有り得ないかった戦い

されど誰かが求め

ここに開幕する。

第四次聖杯戦争異聞録

『抑止の輪より来たれ、天秤の守り手よ!!』

其の言葉と共に本来の正史に至る英霊達が現れる……ハズだった。

原因は一人、ウェイバー・ベルベットである。

本来彼は、師であるケイネス・エルメロイ・アーチボルトが持つ聖遺物を盗むはずであったのだが、この戦いで勝つ為にしてもケイネスが用意した者で戦って勝っても自分の評価に成らないのではと考えた彼は、裸一貫で冬木へと飛んだ。

しかし、彼の幸運は意外な所で発揮された。

ドン

「あ、悪い大丈夫か？」

まだ、覚え途中のたどたどしい日本語を使いながらもぶつかってしまった赤毛の少年に謝りながら儀式の場所へ行った。

其れこそが聖遺物。

遙か未来において『錬鉄の英雄』と謳われる子供の髪の毛が彼の服にくっ付いていたのだった。

4

そして、召喚に至る。

セイバー陣……

「お会い出来て光栄だよ、アーサー王。」

魔術師殺しなどという異名を取る煤けたロングコートを羽織るこの男、衛宮切嗣は召喚に応じた騎士に礼らしい礼を取る態度は見せなかったが、自らの駒にむけて一歩前に歩み出た。

そして突如、笑い始めた

「アー……サー……くくくくく……くははははは……！残念だったな、マスターよ！私はアーサーに非ず……其のアーサーに滅ばれし者。されど……！」

一歩踏み出て切嗣の顔に近づき

「アーサーと国を滅ぼしたのもだ。人はこう呼ぶ……篡奪の騎士とな……くははははははははは……！」

皮肉にも切嗣は遅かった……とある者が先に呼び出してしまったからだ。

ランサー陣……

遠坂時臣は英雄王か騎士王のどちらかにするかを決めかねていた。本来であるならば迷わず英雄王を選ぶはずのだが、騎士王伝来の品を手に入れた時偶々其処にいた娘である凜が

「アーサー王に会いたい……！」と駄々を捏ねてしまったのだった。

時臣は悩んだ。戦争を勝たなければならない。されど、娘の笑顔を見たい。

悩んだ末に、

「問おう」

銀色の具足が雲間から顔を覗かせる月光を受けて輝いた。風に揺れる黄金の髪が、金砂のように舞い上がる。

吸い込まれそうなほど澄んだ聖緑の瞳が、己をこの地へと喚び寄せた時臣を見つめ、

「貴方が、私のマスターか」

ここに騎士王が降臨したのであった。

バーサーカー陣

「彼方が私を呼んだのですね？・・・お互い、酷い様。」

間桐雁夜の前に現れたのは少女であった。しかし、醜かった。

元の顔は大層美しかっただろうが、今の彼女の顔は半分焼け爛れていた。所々焼けていたり、ボロボロであると酷い状態であった。

「君が・・・聖女・・・なのか??」

間桐の主である間桐臓硯が雁夜に渡したのは、聖女の遺品。それに

狂化を付けくわえバーサーカーとして呼んでみれば、言葉を発しているのに驚いた。そして彼女の服装にも驚いた。恐らく、バーサーカーとして呼んだがためにこのような威出立ちになってしまったのかと雁夜は嘆いた。

「！！ああああ・・・」

と、突如バーサーカーが膝をつき体を抱えた。何だと近くに寄ってみると聞こえたのは。

「・・・なんて事でしょう。」

歡喜の言葉。

「まさか、彼方がここにいてくれるなんて・・・嬉しい。まさか、聖杯が私と彼に。このジャンヌとジルを祝福してくれるなんて！！」

バーサーカーは狂っていた。

果てしなく・・・その爛れた顔に光る瞳がドス黒く濁り始めてもいた。

アーチャー陣

「ふむ、君が私のマスターかね？」

「そ、そうだ！僕・・・じゃなくて、私がお前のま、マスターであるウェイバー・ベルベットだ！！」

・・・おかしい？自分を呼ぶ可能性があるのは遠坂凜という少女が衛宮士郎の小僧、二人しかあり得ないと思っていたのだが？

「ん？どうした、アーチャー？」

「いや、何でもない。」

（まあいい。マスターが違うのであれば好都合。存分に殺す事が出来る。）

その後に気づく。ここは養父切嗣の戦場だと。

かくして、イレギュラーのマスターが出そろっ。

ここに、絶望で終わる戦争。第四次聖杯戦争の幕が拳がったのだった。

(後書き)

これが最初に書いていたものです。

連載しなかった理由・・・この先の展開が自分でも予測できなかつた為。取敢えず今書いている奴が人段落したら先に投稿した征服王 in 第五次聖杯戦争のどちらかを連載したいな〜と思っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5517ba/>

第四次聖杯戦争異聞録

2012年1月15日01時53分発行